



宝塚ぼうさい劇場 (旧ハートフル避難訓練コンサート) ～地域と劇場が創造する防災訓練のかたち～



兵庫県宝塚市立宝塚文化創造館
館長 三戸 裕徳

1 はじめに

宝塚市立宝塚文化創造館は、1935年築の歴史ある建物で、かつて宝塚音楽学校の本校舎として使用され、2011年に文化施設として開館しました。開館時、施設を安全安心に利用していただくため、火災や地震に伴う避難計画の確認が必要でした。また、近隣に新たなマンションが複数建設されたことに伴い、新しい住民とこれまで住んでいた住民の間で、防災への関心についての意識差が生じるとともに新・旧住民が共に集える場が求められていました。

そこで、当館から地元自治会（宝塚市花のみち自治会）に呼びかけ「防災」や「地域課題」について話し合い、二部制でコン

サートと避難訓練、防災訓練を軸にイベント化することを提案し、地域から広く参加いただける仕組みを構築しました。

そして、2013年10月に「ハートフル避難訓練コンサート」（2020年から「宝塚ぼうさい劇場」へ改称）と題するイベントを開催し、以降、多様な団体と協働できる機会として規模を少しずつ拡大しながら開催を続けています。

2 「宝塚ぼうさい劇場」の活動と変遷

「宝塚ぼうさい劇場」は、実際のコンサート中に火災や地震などの災害が発生したと想定し、避難訓練を行うことが特徴です。地域に根差した活動として、地元自治会と共催し、消防本部、市民団体、文化団体、芸術家など多様な関係者が協力しています。一般的な避難訓練とは異なり、地元自治会と協働して地域課題に向き合う訓練コーナーを設けるイベントスタイルが特徴です。

開催当初はホールの定員に合わせ人数制限を設けていましたが、より多くの市民が気軽に立ち寄れるよう、各コーナーを短く設定するなどイベント形式を柔軟に変更してきました。防災映像の上映、防災紙芝



宝塚文化創造館外観



AED訓練の様子



コンサートからの避難についての講評の様子



オリジナルぼうさいゲキ「猫神さんのいうことニャー」



避難訓練コンサートの演奏風景

居、バケツリレー、非常食の試食、電気自動車の活用、シェイクアウト訓練、防災劇など毎年テーマを設定し、多角的に防災に取り組んでいます。

これらの取組を通じて、当初100名程度であった参加者数は、現在では約500名にまで増加しています。市民ボランティアや文化団体、地域若者サポートステーションとの連携により、若者の社会参加の機会も提供し、当日約30名のスタッフが従事しています。

3 成果と展望

「宝塚ぼうさい劇場」は、地域間コミュニケーションを促進し、防災における地域課題を可視化する機会となっています。ま

た、その過程で、シェイクアウトのオリジナルソング、イラストや防災劇など新しい創造が生まれています。

オリジナルソングは、地元の防災訓練の他、全国各地のシェイクアウト訓練で活用されています。

また、文化施設が地域とともに防災をはじめとする地域課題の解決に向けた取組を実施するスタイルは、全国の文化施設の新しい形として注目されています。

今後も、宝塚文化創造館は、地域や参加者のニーズを踏まえるとともに、多様な団体との連携を深めながら、災害に強い地域社会の実現に向けた取組を継続したいと考えています。